

2022年度入試解説（国語）

2

問一 漢字の書き取りに関して、一画一画丁寧に書かれておらず続け字になっていて画数が変わっているものは×とする。

3

問一 単語の問題。「文」には「手紙」「漢詩」の意味がある。ここでは長恨歌の話をしているので「漢詩」が答えとなる。

問二 傍線部の前に「読みたいと思う」という文があり、その後に「しかるべき知り合いを訪ねて」とある。よって、ここでの「言ひよる」は「頼み込む」という意味である。

問四 歴史的仮名遣いの問題。「けむ」は「けん」と発音・表記する。従って「ちぎりけむ」→「ちぎりけん」となる。

問五 「たち出づる～」の歌で、長恨歌は悲恋の物語だとしながらも、「天の川辺に心ひかれる今宵ゆえに、そのことを忘れてしまいます」と言っている。つまり「本来であれば悲恋の物語なので貸すことに抵抗がありますが、今夜はそれを忘れて貸しましょう」と解釈できる。

4

問一 (1) 「気にかけない」は「心にとめない、考えを巡らさない」という意味である。

(2) 「目を凝らす」の意味は「じっと見つめる、凝視する」という意味である

問二 人でないもの（まつげ）がガラスに触れたことを、「撫でた」という動作で表現しているため、正答は④。

問三 (1) 5行後に「K君たちに間違いないと、わたしは確信した」とあるため、正答は③。

(2) 「もろくて淡い背中」と比べられていることと、直前に「あまりにも間近に」とあるため、正答は④。

問四 「古本屋」とははっきり書かれている部分が含まれているため、最初の5字は「彼女は狭く」からである。その後、「『紅茶でもいれるよ。』」という台詞から、現在の場面に戻っていることがわかるため、最後の5字は「元に戻す。」

問五 単語に分ける問題。「テレビ／で／は／ラグビー／の／試合／を／し／て／い／た」となるため、正答は③。

問六 比喻を読み取る問題。「春の海の波」は穏やかさを表し、「根気強い」という部分は「面倒なそぶりも見せず丁寧に教えてくれる」ということを表している。正答は①。

問七 熟語の構成の問題。「歓声」は上の漢字が下の漢字を修飾しているものである。よって、正答は同じ構成である②。

問八 I Aさんが「死」について述べているため、そこから考えられるのは②喪服。

II Cさんが「火事で亡くなったことを想像させる」と言っていることからK君と女性が亡くなっていることが暗示される。また、Dさんは「K君の入れてくれた紅茶が冷めていなかったこと」を取り上げていることから「現実ではない世界に足を踏み入れていた」とある④が正答。

問九 本文中に直喩法や擬人法など用いており、風景や心情を印象づけているため、正答は④。

5

問一 (1)「窮屈」の意味は次の通り。

1. 思うように身動きできないさま。
2. 気詰まりに感じるさま。
3. ゆとりのないさま

ここでは本文中の意味を問うていて、「障害者を演じなきゃいけない窮屈さがある」という一文での意味なので正解は「①不自由さ」となる。

(2)「合理的」の意味は次の通り。

1. 道理にかなっているさま。
2. 無駄を省いて能率よく物事を行うさま。

「安心の終わりのなさ」に対し「『ここから先は人を信じよう』という判断をした方が合理的である」という一文での意味を問うている。「安心」より「信じ」るほうが能率よく物事が行えるのだから正解は「④効率的」となる。

問二 傍線部分を含む一文が、「善意が、むしろ壁になるのです」と言い換えられまとめられている。したがって、傍線部「他者のために何かよいことをしようとする思い」＝「善意」となる。

問三 接続語の問題。

I 以下には具体例が書かれているので、具体例の書き始めの接続語が入る。

II は前後で「すばらしい」⇔「押しつけ」と反対の内容だから逆接の接続語が入る。

III は「安心」より「『人を信じよう』という判断をしたほうが合理的である」という二つを比べて選択する内容である。

IV はこれまでの内容をまとめて「利他の大原則」を述べているから、まとめの働きを持つ接続語が入る。

以上を考えると正解は②となる。

問四 助動詞「ようだ」は1. 推定（根拠をもって推量すること）

2. 比況（何かに例えること）

3. 例示（具体的な例を挙げる） といった働きがある。

本文は「まるでバスガイドのように、～教えてください」とあり、これは、「まるで～のように」という比況の用法である。選択肢の中で比況の働きで使われているのは②である。

①は推定、③④は例示の用法である。

問五 形式段落2では「周りにいる晴眼者」によって「自分の聴覚や触覚を使って自分なりに世界を感じるができなくなってしまう」とある。

形式段落3には、「晴眼者が障害のある人をたすけたいという思いそのものは、すばらしい」と言いつつも「それが『善意の押しつけ』」になっていると述べている。

「善意の押しつけ」というのは、自分では他者のために良いことをしているつもりなのに、相手の側からみると自分の意志を無視して無理やり強制させられているということである。

健全者の「善意」が結果として障害者の「自立」を奪っているということである。正解は①となる。

選択肢③は「常に非人道的である」という部分が本文とずれる内容であり、選択肢④は「暴力的かつ恒常的」というところが本文にない内容である。

問六 傍線部中にある「～当事者を追い込んでいる」という部分がどういうことなのか前の部分を探していくと、「やってくれることがむしろ本人たちの自立を奪っている」「病気になったことで～挑戦ができなくなり、自己肯定感が下がっていく」と書かれている。つまり、健常者の優しさによって「自立と挑戦の機会が奪われ、自己肯定感が下がっていく」ということである。この内容を説明している④が正解である。

問七 「A それに対して、B」とあるのだから、AとBはそれぞれ異なる語が入る。
「Bとは～こと。これがCです」とあるのだから、BとCは同じ語が入る。
Cを含む箇所を「つまりDするとき～」とまとめているのでCとDは同じ語が入る。
つまり、A：(B・C・D)という関係になる。

山岸俊男の引用文の中で「それに対して安心は、社会的不確実性が存在していないと感じることを意味します」と述べている。

また、空欄Bを含む箇所を、「Bとは～。つまり『社会的不確実性』が存在する」

したがって、
・社会的不確実性が存在しない＝安心

・社会的不確実性が存在する＝信頼＝Bとまとめることができる。

よって、先のA B C Dの関係に当てはめてA＝安心 B・C・D＝信頼と解答できる。

問八 「社会的不確実性」について述べている箇所を抜き出す。

「それに対して、Bとは、相手が想定外の行動をとるかもしれないこと、それによって自分が不利益を被るかもしれないことを前提としています。つまり『社会的不確実性』が存在する。」

「Ⅳ、利他の大原則は、『自分の行為の結果はコントロールできない』ということなのではないかと思えます。やってみて、相手が実際にどう思うかわからない。わからないけれど、それでもやってみる。この不確実性を意識して～」

上記二カ所から「社会的不確実性」とは、自分の行為がどのような結果になるかわからないことである。正解は②となる。

問九 抜き出しの問題は、特に指示がない場合でも句読点や記号を一字として含む。

解答は「『私の思い』(六字)」である。

問十 問八での解説の通り、自分の行為の結果はコントロールできない＝社会的不確実性

つまり、自分の行為の結果がどのような結果になるかわからないということである。

傍線部は、利他の大原則として述べている箇所なので、利他、つまり相手のためと思って起こした行動が、自分の想定外の結果になったという状況を考えて記述すればよい。

問十一 生徒A … 本文の内容に合致する。正解

生徒B … 「『利他』で必要なのは、率先して動く行動力」という内容は本文にない。

生徒C … 「助けられる側も相手の思いやりに感謝するという謙虚さが」必要であるとは、本文で述べていない。

生徒D … 「安心と安全を追求していくべき」と述べているが、本文中にない内容。筆者は「安心」よりも「信頼」が大事だと述べている。

生徒E … 本文の内容に合致する。正解

生徒F … 「どんな場合でも～手助けしないほうがいい」が合致しない。